

咲き始めは、先端に細い白い毛が見えている。蜜を扱いに来た虫がこの先端を奥に押し上げるように入ると、花粉が押し出されて虫（花びらとおしべのあいだにちょうど入る大きさの虫→マルハナバチ）の背につく。虫が押し入った直後の花は花粉を出している。花粉を出すと筒（おしべ）が縮んで中からめしべが出てくる。ちょうどいい大きさの、背中に花粉をつけた虫が花に入ると、めしべの先に花粉がつく。

★シラタマホシクサの根元^{ねもと}にあたり、ひょろっとした15cm くらいの茎^{くき}に、点々^{てんでん}とごくうすい紫^{むらさきいろ}色の花が見つかる。食虫植物^{しょくちゅうしょくぶつ}「ムラサキミミカキグサ」だ。もっとも虫を捕まえる^{つか}のを見ることはできない。水の中の根元に1~2mm くらいの小さな袋^{ふくろ}をたくさんつけて、ミジンコなどを吸い込んで^すいるんだ。

茎と花しか見えないけど、葉っぱも「いちおう」ある。さがしてみよう。

こんな貧弱な葉っぱでも花もタネもつくれるのは、虫を食べているから。

★エノコログサ（ネコジャラシ）を細くしたような目立たない花穂^{はなほ}だけど、よく見ると濃い紫色のおしべがきれいなのが「ハイヌメリグサ」。「ハイ」は地面を「這う」からなんだけど、「ヌメリ」の意味は？

湿地園右の階段を登った右側、「ハイヌメリグサ」の名札があるところで葉っぱを1枚ちぎって、もみつぶしてみよう。

2006年8月発行 名古屋市東山植物園

東山植物園セルフガイドシート⑤ 植物園たんけん隊

シラタマホシクサと湿地の花

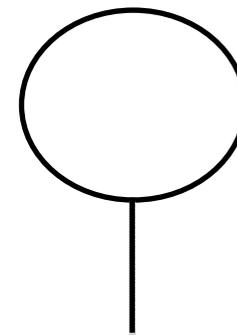
___月___日 なまえ_____

見られる場所：湿地園^{しっちえん}（合掌造りの家向かい側）^{がっしょうづく}

見られる時期（シラタマホシクサ）：9月（8月から白いつぼみが出て、花のあともドライフラワー状で10月まで見られる）

★漢字で書くと「白玉星草」、水玉模様にも、銀河のようにも見える。あなたの第一印象は？〇〇みたい

★丸く見えるのは、「頭花^{とうか}」、たくさんの花の集まりだ。よく見ると小さな花が順番に咲いている。花は白い玉のどの部分から咲くのかな？



★花が咲いてくるにつれて、玉は大きくなる。今日見た一番大きな「白玉」は直径何センチ？^{ちよっけい}

※花をちぎったり抜いたりしないで観察してね

★花が咲いてくるとほんのり甘い香りがする。よく香る時間帯があるみたいだ。香りを感じたら、何時ごろだったか、どんな香りが記録しよう。

★じつはシラタマホシクサには雌花めばなと雄花おばながあって、一つの頭花とうかに不規則ふきそくに混ざって咲く。雄花には黒いおしべが目立つが、雌花のめしべは目立たない。雌花・雄花をさがしてみよう。

★シラタマホシクサには「茎」くきはほとんどなく、葉っぱも細くて短く目立たない。目につくのは細い「花茎」かけいと「頭花」とうかだけ。一年草だけど、生える時期や場所によって大きさがずいぶんちがう。一番背が高いのは何 cm くらいあると思う？目測しよう。

ホシクサのなかま(ホシクサ科)は日本に約 40 種類あるとされる。小さく渋い花が多い中で、飛び抜けてきれいなシラタマホシクサは、愛知県・三重県・静岡県の伊勢湾に近い地域でしか見られない「特産種」だ。現在、生育地となる湿地が開発や環境の変化でへってしまったり、採取などの被害によって数がへっているため絶滅危惧種(ぜつめつきぐしゅ)に指定されているよ。

★濃い青紫色こ あおむらさきいろの背の高い花が「サウギキョウ」キキョウと同じ「科」かで色は似ているけど、花の形はずいぶんちがう。踊おどっている人みたいな花のかたちをスケッチしよう。



★花びらの上にある下向きに曲がった筒は、おしべが合わさったもので、中心にはめしべが入っている。下から純に咲く花を見くらべよう。めしべ、おしべ(花粉)はどんな順番ででるのかな？

また、どんな虫が、どんなふうに蜜を吸っているかな？